

ザ・レビュー (2022/1/31 の週)

<結局はレンジ相場>

ドル/円 1時間足



31 日月曜 東京オープン後、マーケットは依然ドルに対してブル（強気）で、115.23 から上昇を始め、115.59 の週中高値まで駆け上がりました。

しかし、それ以上には伸びず、115.39 まで緩みました。

ロンドンオープン後、115.35 まで売られるも、クロス円の買いが強く、115.49 まで押し返された後は、115.40~50 近辺での横ばいが続きました。

ニューヨークに入り、ボスティック・アトランタ連銀総裁やデーリー・サンフランシスコ連銀総裁といった FOMC メンバーの発言から、少なくとも、3月の0.5%の大幅利上げの期

待は後退していたもようで、これを受けて、ドル/円は下落し、114.92 の安値まで下げた後、115.10 近辺に落ち着きました。

1 日火曜 東京オープン後、一時 115.19 の高値をつけましたが、前日の FOMC メンバーの発言が影響して下落に転じ、114.89 をつけました。

しかし、値ごろ感からの買いが入り、ロンドンオープン後、クロス円の買いも手伝って、115.07 まで反発しました。

しかし、ドルが全般的に売りとなり、ほぼ一本調子に、114.57 の安値まで下げました。

ニューヨークオープン後。いったん 114.89 まで反発しましたが、依然として上値は重く、114.64 まで緩んだ後、114.70 近辺に落ちつきました。

2 日水曜 東京オープン後、いったん 114.78 まで上げた後、114.65 まで反落しました。

しかし、その後、値ごろ感からの買いがふり返し、114.80 の高値まで上昇しましたが、上値も重く、下落に転じました。

ロンドンオープン後、下にロングのストップロスがあるようで、さらに売りが強まりました。

そして、前週 27 日の FRB の 3 月利上げ示唆でできたドルロングの投げから、ドルは全般的に売られ、114.24 まで下げました。

ニューヨークオープン後、発表された 1 月の ADP 雇用者数は、-30.1 万人と予想の 18.4 万人をはるかに下回ったことから、一時 114.16 の週中安値まで売り込まれました。

しかし、それ以上には下がれず、急速に方向感を失い。114.20~40 近辺での揉み合いとなりました。

ADP 雇用者数：米国の大手給与計算アウトソーシング会社である ADP (Automatic Data Processing 社) が算出・公表する雇用に関する指標をいいます。ADP は、約 50 万社の顧客 (U.S. business clients) を対象に毎月雇用者数の動向を調査したもので、2006 年から行われています。ADP 雇用統計は、毎月の米雇用統計の非農業部門雇用者数が発表される二営業日前に公表されたため、本指標を非農業部門雇用者数の先行指標として注目される指標です。

そして、引け際、114.46 まで上げました。

3 日木曜 東京オープン後、114.33 を安値に 114.40 前後で横ばいが続きました。

午後に入り、ジリ高にとなり、その動きはロンドンタイムも続きました。

理由は、マーケットが売り上がってショートになった上に、それに気づいたロンドン勢が買い上げた（ショーツクイズ）ため、ニューヨークオープン前には、114.97 まで上げました。

ニューヨークオープン後は、114.80~90 近辺を中心として、小動きでしたが、底堅い動きをしました、

引け際、114.99 の高値まで上げました。

4 日金曜 東京オープン後、前日のニューヨークの流れを汲んで、115.05 までワッと買ったものの急激にロングになり、114.82 の安値まで反落しました、

その後は、この日の夜に発表される米雇用統計を控えて様子見気分が強まりました。

しかし、ロンドンがオープンすると買いが強まり、115.00 を上抜いて、115.15 まで買われました。

米雇用統計発表が間近になると、ポジション調整から、114.78 まで反落しました。

日本時間 22 時 30 分に 1 月の米雇用統計が発表され、失業率は 4.0%（予想 3.9%）、非農業部門雇用者数 46.7 万人（予想 12.5 万人）となり、特に非農業部門雇用者数が予想を大きく上回ったことから、買い強まり、115.43 の高値をつけました、

米雇用統計：米国労働省（U.S. Department of Labor Bureau of Labor Statistics）が毎月発表する、米国の雇用情勢を調べた景気関連の経済指標の事です。全米の企業や政府機関などに対してサンプル調査を行い、10 数項目の統計が発表されます（失業率、非農業部門就業者数、建設業就業者数、製造業就業者数、小売業就業者数、金融機関就業者数、週労働時間、平均時給など）。雇用情勢の推移は、個人所得・個人消費などにも関係し、また今後の景気動向にも大きな影響を与えます。この統計の中でも「非農業部門就業者数」と「失業率」の

2項目が特に注目されていて、FOMC（連邦公開市場委員会）の金融政策の決定にも大きな影響を与えられているとされています。FXにおいては、最大の経済指標と言われていましたが、最近、超高速取引の影響からか、発表後の値動きが限定される場合が増えています。

しかし、売りも引かず、115.20 近辺に緩み、結局 115.20 での越週となりました。

結局のところ、中途半端な上げに終わり、やはり、相場がレンジ相場の第2段階である安定期にあることを確認した格好です。

来週も、基本的には、114.00～116.00 近辺でのレンジ相場が続くものと見えています。